



感動した体育大会！

今年の体育大会は、赤団の勝利で幕を閉じました。天候にも恵まれ、例年にない白熱した熱戦を多くの保護者の皆様にご観覧いただき、生徒たちも喜んでいました。

準優勝の白団の応援団長が解団式で、「優勝できなかったけど、白団が1つのチームとなって頑張ることができて嬉しかった。次は、苓北中がワンチームとなって、次の行事も頑張っていこう。」と話していました。リーダーとして、完全燃焼できたからこそ出てきた言葉と感じました。

生徒たちは、白団団長のように体育大会を通じていろいろな経験を積むことができました。中学生は、こういう体験を積み重ねて、成長していくと改めて感じました。

目標に向かって取り組んでいく「価値の素晴らしさ」に気づく苓中生であってほしいと思います。



地域からの嬉しいニュース！

地域の方から嬉しいニュースが届きました。

3年生の小田遥斗さん、杉本鷹士さん、坂口優真さん、高橋瑞希さんの4人が学校帰りに困っている高齢の方に声をかけ、良いことをした。詳細は、次のとおりです。

高齢者の方が乗用されている電動カートのタイヤが溝にはまり、動けなくなっているところを下校中に通りかかった4人が気づき、声をかけて救助したということでした。この「気づいて声をかける」という行動は、なかなか難しいことで、誰にでもできることではありません。素晴らしい勇気と行動をしてくれた4人を誇りに思います。



熊日新聞 読者の広場 掲載

令和6年4月28日

「最悪」想定し自分の命を守る

甲斐侑愛、中学3年生

先日深夜、愛媛県や高知県で大きな地震が起きました。夜中に緊急地震速報が鳴り響き、私はいったんは起きましたが「自分の所には来ないから大丈夫」と思い、眠りにつきました。

その翌日、私たちの学校で地震や津波を想定した避難訓練が行われました。訓練前に事前学習し、避難経路の確認やグラウンドへの一次避難を行いました。その後、二次避難として、全校生徒で学校から約1キロ離れた高台まで、経路を確認しながら避難しました。みんな一言もしゃべらず真剣に避難する姿に、防災への意識の高さを感じました。

私は幼い時、1度避難をしたことがあります。不安で怖い思いをしましたが、父と母と一緒に避難してくれたので安心したのを覚えています。

しかし、もし学校が休みの時に大きな地震が来て、津波の怖れがある場合、1人で避難しなければならない時が来るかもしれません。そのような時に備えて、普段から避難場所や避難経路の確認をしておきたいと思いました。

もし、他の県で大きな地震が起きた時は「自分の所には来ないから大丈夫」と思わず、最悪の場合を想定して自分の命は自分で守れるよう、日頃から意識して生活したいと思います。



甲斐 侑愛さん

三行詩コンクール募集！

天草PTA連合会主催の「三行詩コンクール」をご紹介します。応募対象は、①小・中学生の部、②一般の部（保護者・教職員）です。三行詩のポイントは、「我が家のルール・絆・命の大切さ、日々の気付き、思い出、決意などの様々な事柄を面白おかしくまとめる」ことです。詳しくは、学校から配布したチラシをご覧ください。作品例をご紹介します。

【小学生の部】

妹よ 俺が怒られているのに 隣で泣いてくれて
ありがとう でもそのイチゴ 俺のだぞ！

【中学生の部】

玄関のくつ しらないうちに 小さいのがお母さん

【一般の部】

反抗期 一瞬の優しさに 母は ノックダウン！